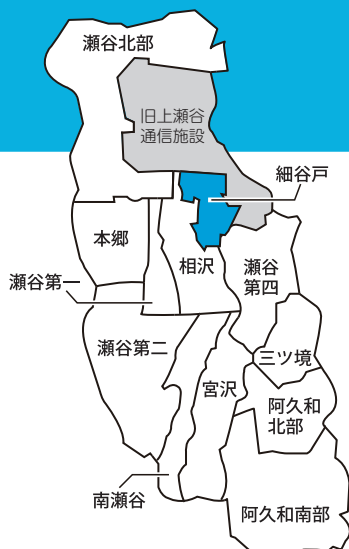


細谷戸地区



細谷戸地区には相沢六・七丁目の一部も含まれます。

1 地区の概況

- ◆旧上瀬谷通信施設に隣接する県営住宅が中心となる地域で、世帯数は約1,400戸。連合自治会の様々な行事や一斉清掃を行うなど行動力があり、地域の結束力を強めている。
- ◆年齢構成は、65歳以上の割合が約45%と、区平均約28%と比較すると高い割合となっている。
- ◆家族構成は、区平均と比べて、単身・夫婦のみ・ひとり親と子の世帯が多い。近年は外国籍の世帯も増加している。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

◆ビーハイブ活動(※)を進める実施委員会を設立

- ・自治会単位での高齢者見守り活動
- ・安心キットの配布、見守りパトロール
- ・親子交流会

⇒平成31年度から「おあしす102実施委員会(※)」内で活動を継続

※「ビーハイブ活動」

孤独死や孤立を防ぐことを目的にした、ビーハイブ(蜂の巣)の様にきめ細かい高齢者の見守り体制づくり。

※おあしす102実施委員会

細谷戸地区の中に拠点となる場(住宅)を県より借り、ここを広く高齢者や子どもたちの「地域のおあしす」として無料開放している。その運営をおこなっているのが、おあしす102実施委員会で、102とは部屋の号数。

- ◆細谷戸県営住宅の空き家を活用した拠点おあしす102の運営
- ◆高齢者を対象とした、はつらつクラブ(転倒予防体操)《毎週火曜日》やラジオ体操《毎週土曜日》
- ◆お助けパートナー(高齢者世帯への軽作業の手伝い)
- ◆高齢者定期訪問(地区社協、地区民児協による)
- ◆サロン細谷戸《月1回》
- ◆子育てお母さんのつどい《月1回》
- ◆外国籍の親子を対象としたイベントの開催
- ◆その他 研修見学参加

3 第4期計画に向けての課題

- ◆高齢者の安否確認や見守り方法の継続・拡充
- ◆地域の子どもを育むための活動について検討
- ◆各事業を推進に向け次期役員(ボランティア含む)の育成
- ◆地区の活動並びに福祉保健計画をよりよく知ってもらうための広報活動

4 推進母体

細谷戸地区福祉保健計画実行委員会

細谷戸連合町内会・細谷戸地区社会福祉協議会を中心とした各団体の代表者で構成

「心が通じる地域づくり・地域は家族」

—高齢化社会のおあしす地域—

【取組姿勢】

第1期～第3期計画での、ビーハイブ活動を中心とした取組を今後は、より高齢化が高くなった当地域で「おあしす102実施委員会」を拠点とし、瀬谷区で唯一高齢者用の集会施設を持った地域として、第4期では、これを活用し活動していく。

【取組内容】

1 おあしす102活動の推進、前ビーハイブ活動を推進

- ・ これまでの活動をより推進して、安心キットの必要性を幅広く伝えていく引き続き、既に配布している安心キットの中身の点検を行う
- ・ 地域のパトロール活動を持続可能な範囲で実施する
- ・ 地域の拠点としてのおあしす102の活用について検討していく

2 地域内の子ども育成対策、大人と子どもの交流

- ・ 子どもが安心して過ごせる環境づくりに注力し、「子どもと大人」との交流の場を増やす
- ・ 地域と学校の連携を深める
- ・ 子どもを対象とした行事を検討し、実施していく

3 災害時の対応、災害時の行動

- ・ 障害のある方への支援方法について、連合町内会やその他の組織の在り方や連携の仕方を考える
- ・ 一般的な震災や火災等については、おあしす102実施委員会と連合町内会、自治会が協力して進めていく

4 障害のある方の把握と援護、広報活動の推進

- ・ プライバシー等に注意し、できる範囲で障害のある方を把握する
- ・ 定期訪問の機会を利用して、声かけを行う。相談ごと、困りごと等の話を聞き、関係機関等と連携する
- ・ 安心キットは可能な限りの設置を呼びかける

